

第12回「番外編 燃えてこそ命」 創始者青柳清の思い出

青柳清「スポーツ吹矢」物語の連載は11回を数えましたが、この間、全国の会員様、愛好者の皆様からスポーツ吹矢の復興を喜ぶお声とともに創始者の青柳清を偲ぶお声が続々と事務局に寄せられています。

皆様ご存知の通り、青柳清はスポーツ吹矢を国民的スポーツに育てるため、2015年に倒れる直前まで全国を行脚していました。

「燃えてこそ命」と。

そんな創始者を称える新しい大会「青柳清杯」が創設されました。そこで連載の途中ですが、番外編として「『燃えてこそ命』創始者青柳清の思い出」と題し、全国の会員の皆様、愛好者の皆様からスポーツ吹矢創始者・青柳清の思い出を語っていただくことにしました。

× × × × × ×

◆私を吹矢の虜にした神様の存在 遺された意志を受け継ぎ発展・振興に尽力

竹内 勇夫 五段位
「長野みなみ支部」支部長
上級公認指導員



15年前、私がスポーツ吹矢を始めて3ヶ月後に東京都大会の観戦に行きました。初対面の青柳清さんにご挨拶をさせていただくと『長野からわざわざ来てくれたの？ まあ、ここに座りなさい』と優しく声を掛けてくださり同行した妻と両サイドに着席。観戦しながらスポーツ吹矢の魅力を拝聴しました。



その時から私は“吹矢の虜”になり、青柳清さんは今でも神様の存在として数々の思い出が脳裏をよぎります。

「長野支部創設懇親会（写真）」に青柳清さんをお招きし、二次会へご案内。シンガーソング・ライター（自作自演のCD「男の意地」も頂戴しています）の本領を發揮され、拍手大喝采。エンタメの面においてもこれぞ『燃えてこそ命』を実感した瞬間でした。

また「青柳杯」「全日本大会」等に参加の際も必ず励ましの声を掛けて頂き楽しく挑戦できました。青柳清さんが遺された意志を受け継ぎスポーツ吹矢の発展・振興に尽くしたいと思っています。

◆人を惹きつける力の秀でた創始者 ひとつひとつのお言葉が心に深く刻まれている

上浦木 勇 六段位
「鹿屋中央支部」支部長
准師範／上級公認指導員



私が清先生に最初にお会いしたのは2009年に開催した「第一

「鹿児島県大会」の前夜の夕食会の席でした。その時の印象は身をお飾りにならない立派な方だと痛感しました。自己紹介の時、もの静かにお話をされていたのが非常に印象深く、しかも人を惹きつけるお力がある先生だと直感しました。

スポーツ吹矢については「吹矢式呼吸法で得られる健康効果を目的とした新しい国民的スポーツである」「集中力を高められ技術の向上を共通の目的に高齢者や障害者も分け隔てなく三世代で楽しめる」「礼儀作法が身につく」「出会いの場となり仲間との絆も深められる」などを学びました。

さらに清先生は「いずれは世界的に通じるスポーツになる」と話され「鹿児島で吹矢を幅広いスポーツになるよう貢献してください」と励ましてくださったことが今でも私の心に深く刻まれています。

◆「楽しくなければ吹矢じゃない」 崇高な理念スポーツ吹矢の伝統は我々後輩が守り受け継いでいく

清水 重彦 四段位

「松本市TM15・20支部」顧問
公認指導員



松本市の里山を終の棲家として暮して間もない頃、スポーツ吹矢の体験教室に誘われ入会しました。指導者からスポーツ吹矢の基本動作・健康効果等の教示を受け、私も昇段するごとに徐々に、その立場に就こうと決意を固め日々精進を続けていました。その間、初代（創始者）青柳清会長の素晴らしい理念に共感しました。また全国各地での講演を通し、その崇高な理念を訴えていることに敬服し

ました。

◎「楽しくなければ吹矢じゃない」

◎「心技練磨」

こうした身体から滲み出る重みのある言葉の等々を忘れず努力し、自身の意識の高揚と仲間との結束を図ろうと令和2年4月1日「松本市TM15・20支部」を結成し、その年度からこうしたお言葉を支部の指針として活用させて頂いております。

現在は、支部長を退き、顧問と公認指導員として仲間と力を合わせ楽しく生きがいを持って、スポーツ吹矢を続けています。

青柳清理事長が築き上げた伝統を我々後輩が代々守り、更に発展させていくのが我々の使命であると思っております。

◆創始者はスポーツ吹矢発展のため精力的に体張る 振興協会を発展させ青柳会長の 情熱に忘える

間々田耕造 六段位

「南彩白岡（土日会）支部」 支部長
上級公認指導員



平成16年の夏に吹矢を始めました。まだ私が住む埼玉県白岡市に支部はなく、春日部支部にお世話になりました。しかし入会まもなくガンの手術を受け2ヵ月後退院してから練習を再開。翌年（平成17年8月）の第8

回全国大会団体戦で優勝できました。その時、表彰台で掴んだ立派な優勝旗の重さは今でも忘れません。その時の青柳会長の優しい目と笑顔が思い浮かびます。そして1



年後、「ハワイ総支部設立記念式典」に参加させていただき、多くの方々と親交を深めることができたのも良い思い出となっています。

この頃の青柳会長は全国各地の支部設立に奔走していました。承認を得た支部長を前に直接一人ひとり、吹矢発祥の地・銀座本部で激励してくださいました。私もその一人でした。

また青柳会長は多くのテレビに出演したり新聞・雑誌の取材を受けたりしてスポーツ吹矢の魅力をアピール、積極的かつ精力的にスポーツ吹矢発展のために体を張ってくださいました。

新たに名称が「一般社団法人スポーツ吹矢振興協会」となり青柳会長の情熱に忘れられますよう仲間と共に一生涯スポーツ吹矢の普及に努めます。

◆気遣いと人間味に溢れた青柳会長 指導員は立派な人格者であれと指導受ける

中村 仁三 六段位
准師範／公認指導員



青柳会長が設立したスポーツ吹矢協会は、当時障害があり行動に難があった私でも入会することができ、練習できたことに感謝しています。

1999年、第一期生の公認指導員の講習時に会長から「スポーツ吹矢を広めることに協力をお願いします」と直接励まされました。当時、会長は熱心にマスコミに宣伝され、私に普及活動でできることは何があるかと考え、地方大会を計画。

その数年後、同志を得て埼玉大会を実現。会員増加に貢献できたと自負しています。また会長から公認指導員として「吹矢について

1～2時間、話が出来るようになって欲しい」と言われ、吹矢や呼吸に関して知識を得るために努力したことも記憶しています。指導員は立派な人格者であり、先生と言われる立場になってもおごり高ぶる事がないよう言動には注意するなど助言もいただきました。

初期の大会時、私に電話があり開会の挨拶のとき障害のある人が加入したことを話しても良いかという内容でした。青柳会長は気遣いと人間味に溢れ、出会った人を大切にされる方だと思いを強くしました。

◆「楽しくなければ 吹矢じゃない」に共感 「人を大事にする精神」が人間関係を醸成する

櫻井 操 四段位

「桜川スマイル支部」 支部長
公認指導員



青柳清会長と私とのご縁は平成21年の入会からになります。

直接お話をさせていただいたのは茨城県大会にお出でいただいた時。ご挨拶と一言二言の会話でしたが、にこやかに笑顔で接していただきました。偉ぶることもなくお人柄の良さと重みを感じました。

私が最も共感しましたのは「楽しくなければ吹矢じゃない」という言葉でした。確かに楽しくなければ長続きしない、上達もしないと思います。

振興協会を支援している(株)ダイセイコーの「東京・銀座 大成功物語」にありますように「人を大事にする」という精神が人間関係を醸成するのだと思います。

スポーツ吹矢を「国民体育大会の正式種目にしたい」「夢はオリ

ンピック種目」との壮大な構想の実現を見届けられず78才という若さで逝かれたことはさぞご無念であったことでしょう。

振興協会の青柳芳英代表理事がその意志を引き継ぎ、さらに発展を遂げられることを心からお祈り申し上げます。